

1. 地区の他の福祉活動とも一体的にすすめる
2. 一方的に支えられるのではなく、誰かを支える側にもなってもらう
3. 地区の人達から、見守りを通して地区の福祉活動を知ってもらう

見守りを通じた地域のカタチ ー新栄町区ー

見守り活動といつても、肩ひじ張らずに、毎日のなかで自然に気にかけたり、挨拶をしたりと、ゆるい感じでやっています。ただ、この活動があつたおかげで利用者の体調の変化に気づいて遠方に住む親族に連絡をとったり、利用者が水路で怪我をしてしまった時も「他の人も同じ目に合わないよう」ってことで草を刈ってロープを張つたりしたこともありました。

対象者もこの活動だけじゃなくて「自主防災会」や「しんせつ除雪隊」で支えている方もいたりして、それぞれの活動を単体で進めていくんじやなくて、どうやつたら一体的に取り組めて、それが区の人達にとって優しい地域づくりにながつたらー、ってことをみんなで考えていますね。

支えることは、支えられること

対象者もただ一方的に見守られる側ではなく、一緒にサロン活動やボランティアで施設に慰問してのハーモニカ演奏、時には他の対象者の見守りもお願いしたりして、「みんなで何かをする仲間」って感覚の方が強いですかね。だって支える側もいつかは支えられる側になると、今度は自分もしてもらう。だからみんなでどんなことでもいいから、周りの誰かや地域を支えていこうってことが、将来に向けての区の地ならしになると。そんな区づくりが結局、自分に返ってくるんだと思います。

それが「じゃあこれは何? どういうと?」っていう興味につながつたりするんですよ。私がそうだったみたいに、見守りや防災っていうのがその一つの切り口になればいいなって。そんなことが区でも後継者って形で続いていくといいですね。

これからも誰かの好奇心に引っかかるような活動や場をつくっていきたいと思っています。

区長になつた時は困りましたね。いきなり「支え合いの地域」なんてできるわけないし。65歳になって「これが福祉ですか」なんて言われてもわからないわけ。ただ、今まで地域や社会に生かされてたことを何かしら返したいなって人もいると思うんですよ。そのやり方やタイミングがわからないってだけで。でも福祉でも、何か一つきっかけがあればすると「なんだ、自分で貢献できるんじゃないかな」って気づくと世界が広がると思うんですよ。

Voice ~利用してみて思うこと~

妻も亡くなり、今はひとり暮らしです。子どもは3人いますが、みんな県外にいるので、コロナもあって、なかなか帰ってこられないですよね。だから、同じ地域の中で普段から気にかけてもらって、本当にありがたいですよ。腰(の病気)のことも雪のことも、何かあったら、いろいろ話を聞いてくれて助かるばかり。頼りになる存在です。



吉田 一男さん (91)

パソコンやスマートフォンが得意。カラオケが好きで竜鉄也の奥飛騨慕情が十八番。

「社協とちお」がすすめる、見守りのカタチ

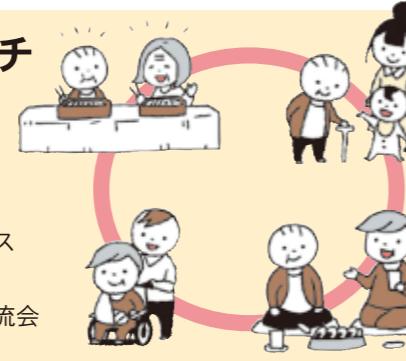
~地域に広げる「支え合い」「気に掛け合い」の輪~

「ネットワーク」を通した見守り：小地域ネットワーク活動

「食事」を通した見守り：ふれあい食事サービス(配食)

「支え合い」を通した見守り：ボランティア銀行、福祉送迎サービス
しんせつ除雪隊(冬期)

「交流」を通した見守り：ふれあい・いきいきサロン、各種交流会



*1 小地域ネットワーク活動
おおむね 75歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に、地域でネットワークを組んで見守る支え合い活動。

*2 しんせつ除雪隊
除雪が困難な世帯の除雪やその相談、冬期の見守りを行う支え合い活動。



特集 今だから考える、地域の見守りと地域づくり。

あなたは、怪我や病気で家にこもりがちになった時や災害が起きた時に周りで気にかけてくれる人はいますか。

「コロナ禍で地域のつながりが希薄になった気がする——。」

そんな声も聞かれる中で、孤独、孤立を防ぐために、様々な工夫をして見守り活動に取り組んでいる地区が榜尾には多くあります。

今回は、その地区の中から、見守りを通じた地域づくりに取り組む新栄町区の片岡区長にお話を伺いました。

**「自分の時間の3分の1を
お世話になつた地域に
返していきたいんだよ」**

緩やかな見守り活動を

新栄町区では、隣近所で体制を組んで見守る小地域ネットワーク活動を年間通して取り組んでいます。

利用者は4人で、その方を14人の協力者で体制を組んで見守っています。協力者は、利用者と普段から付き合いのある近所の人や区役員、「この人だったら仲良くやってくれそうだな」という方を民生委員と連携して選ぶようにしています。

